

無痛分娩の説明書

説明日 年 月 日

無痛分娩の方法

当院での無痛分娩は硬膜外麻酔と脊椎麻酔の併用で行います。硬膜外麻酔とは脊椎の硬膜外腔というスペースに細かいカテーテルを留置して、局所麻酔剤を投与する方法で手術の後の痛みを少なくなるためにも用いられています。脊椎麻酔とは脊椎のくも膜下腔というスペースに直接に薬剤を投与する方法です。硬膜外麻酔だけでも無痛分娩は可能ですが、脊椎麻酔と硬膜外麻酔を組み合わせることにより迅速で確実な鎮痛が可能となるので、当院では基本的にこの方法で行っています。

無痛分娩の長所

無痛分娩の長所はなんとといっても本来の陣痛の痛みをかなり軽減することです。その結果、分娩中に体力の消耗が少なく、分娩後の体力の回復も早いと言われています。

医学的な理由で無痛分娩が好ましい場合もあります。例えば精神的な理由で分娩のストレスを少なくしたい場合や、動脈瘤などがあって血圧の変化を最低限にコントロールしたい場合などが挙げられます。

無痛分娩の短所

無痛分娩の安全性は十分に確立されていますが、以下に示すような問題点があることにご留意ください。

分娩遷延：麻酔が効きすぎた場合、分娩時間が延長したり、吸引分娩が必要となる可能性は増えたりすることが指摘されています。しかし、無痛分娩により帝王切開になる可能性が増えることはないと言われています。

頭痛：脊椎麻酔の影響で分娩後に頭痛が起きる場合があります。この頭痛は坐位や立位で増強するので授乳の妨げになることがあります。ほとんどの場合1週間以内に自然に良くなります。頭痛がひどい場合には積極的な治療法もありますので主治医にご相談ください。

発熱：硬膜外麻酔の影響で38℃以上の発熱を起こす可能性が10%程度ありますが、胎児に対する影響はありません。

かゆみ：薬の影響で体のかゆみが起こることがありますが、我慢できないようなかゆみではありません。その他に腰痛や下肢のしびれが稀に見られることがあります。

無痛分娩を行う場合の注意点

無痛分娩の安全性を確実にするために以下のような制約があります。

飲食：誤嚥の危険性を減らすために無痛分娩当日は原則として飲食を禁止し、水分は点滴で補います。

排尿：麻酔中は排尿困難になります。このような場合はカテーテルで尿をとります。

歩行：麻酔の影響で歩行困難になる場合があります。当院では安全のために麻酔中は歩行できません。

無痛分娩の費用

費用は、『脊椎麻酔 3万円』または『硬膜外麻酔 5万円』です。

*無痛分娩の説明は基本的には陣痛開始前に行うようにしていますが、中には陣痛が始まってから無痛分娩を希望され、非常に切迫した状況での説明が必要なことがあります。このような場合には、簡単な説明にとどめる場合があります。

その他、ご不明な点がございましたら、申し出て下さい。

お問合せ先

〒678-0952 兵庫県姫路市南条2丁目23番地

医療法人 藤森医療財団
小国病院

TEL 079-284-0381(代)